

# 2025年10月3日忍坂街道古墳探訪時観察した植物

作；岡田弘

## イボグサ（疣草） ツクサ科イボグサ属＊花期＝8～10月

名前の由来＝「疣取草」が転じて、草の汁をイボに付けるとイボが取れるとされての命名、だが、特に薬効がありません。1年草で主に水田や湿地に生える、日本では本州～沖縄まで広く分布、朝鮮、中国にも分布している、＊花言葉＝静かな希望・忍耐・困難に打ち勝つ力、謙虚な美しさ。と多くあります、いずれも控えめな、逆協に耐える力うい秘めています。イボグサで疣を取る名前であるにも関わらず薬効が無いとあるので、イボを取る薬効がある草が無いかと調べてみたら、ムギ科のハトムギが漢方でイボに効く薬として「ヨクイニン」と言う名前でありました。今回は道端の水路の中に生えていました。水田の強雑草として嫌われ者です。



## メリケンムグラ（米利堅葎） アカネ科オオフタバ属＊花期＝8～10月

名前の由来＝メリケンとはアメリカを指し、つまりアメリカから来た雑草、ムグラとは群れることを意味している、故にメリケンムグラは群生している雑草という意味です。今回昼食をした石段の下方に白く群生していました。北アメリカ原産の1年草、ため池の湖畔、放棄水田、畦道、など湿地を好む、茎は4角形で葉は無毛地面を這って広がり広がり群生する、夏4枚白色の花を咲かせる、花に微毛がある。1969年に岡山で発見された。



## ヒメアメリカアゼナ（姫亜米利加畦菜） アゼナ科アゼナ属＊花期＝8～9月

名前の由来＝アメリカアゼナより小さいので姫、アゼナは田んぼの畦に生えているので、北アメリカ原産の1年草、在来種のアゼナ、外来種のアメリカアゼナに似ているが小さいので、花は淡い紫色の唇形花、上唇は浅く2裂し下唇は3裂している、花柄が葉の1.3倍ほど長いので他のアゼナと区分できる、今回は他の野草の中にまぎれて多く観られたが、目立つことなくひっそりと咲いていたので気づかれた方は少ないと思います。



## アオツズラフジ（青葛藤） ツズラフジ科アオツズラフジ属＊花期＝7～9月

名前の由来＝アオとは茎や葉が緑色をしているところから、ツズラとは今でいう籠のことでこの蔓で籠を編んで利用していたので、10月頃ブドウ状に房についた実は美味しそうだがアルカリ性の毒があるので食べることは出来ない。日本の在来性つる植物で北海道～九州・沖縄まで広く分布している、花も黄白色で目立つことなく、又、自立出来ない所以他の木やフェンスなどに左巻で上に延びて成長します、雌雄異株、葉は互生、卵形、ときには3裂する



## アキノタムラソウ（秋の田村草） シソ科アキギリ属

名前の由来不明、日本在来種で北海道～九州・沖縄迄分布、山野や道端に普通に見られる多年草、普通は30cmほどに細長い花穂を伸ばして薄紫色の花を着けているのが特徴です

＊花言葉＝感謝・支持・善良・自然のままのあなたが好き。  
秋と名前にあるが夏の暑い時期から咲き始めます、同じ仲間、ハルノタムラソウ、ナツノタムラソウ、等多くあります。葉の形は変異が多く一定ではない。花や葉に繊毛がある。



## ツルボ（蔓穂） ユリ科ツルボ属＊花期＝8～10月

名前の由来＝ツルボの球根の外側の皮を剥くとつるつるの丸坊主頭に似ているつる坊主が「ツルボ」になったという面白いせつがある。日本在来種で本州＝九州に日当たりのよい山野に自生、淡い紅淡色の可愛いらしい花が特徴、葉は線形、球根は薬効がありすり下ろして湿布として使用、火傷、切り傷、神経痛、皮膚病、などに効果があった、近年ではうがい薬、化粧水など販売されている、戦後の食糧難の時代には数回塩ゆでして好みの味付けをして食べられていたようです



## キバナコスモス（黄花秋桜） キク科コスモス属＊花期＝6～11月

メキシコ原産の帰化植物、シコでは自生していますが日本では園芸種として栽培、大正時代に輸入した、暑さに強い、痩せ地でも育つ、病害虫に強いなど育てやすいので近年休耕田や休畑などに観光を目的として植えられているのが多い、花期も長く早いものは6月頃から咲き始め11月頃まで作、咲き終わったのを切り戻せば、再度花を咲かせることが出来ます



＊花言葉＝野性的な美しさ・幼い恋心・絢爛

